

東通村漁業連合研究会「サケ漁況の見通しに係る研修会」



講師の大水調査研究部長



熱心に耳を傾ける参加者の皆さん

9月24日、村体育館にて、東通村漁業連合研究会（会長：林 良一）の研修会が開催され、青森県産業技術センター内水面研究所の大水 理晴 調査研究部長から「サケ漁況の見通し」について講演なされました。

大水部長によると、過去の資源動向等から予測される今年のサケ来遊の見込み数は、昨年をさらに下回り、太平洋沿岸での河川捕獲尾数は約4千尾、沿岸漁獲尾数は1万5千尾が予測されるとのことです。しかし、黒潮大蛇行が収束したことから海水温の上昇が抑えられ、サケ回帰の通り道が形成される可能性があり、状況によっては期待が持てることです。今後の資源回復に向けて、親魚の確保やふ化場での適正管理などの取り組みが求められており、海況予測システムを活用しながら、今後の漁に生かしてほしいと、参加者に呼びかけました。

村特産品を全国へ！ 特産品PRイベントに参加



青森・東通村フェアの様子



AFBファンミーティング



北区区民まつり

9月から10月上旬、青森県内外で開催された各種イベントに参加し、東通村の特産品をPRしました。

9月11・12日の2日間、東京都の東京電力本社ビルと東京イースト21の2会場で「青森・東通村フェア」が開催され、特産品販売を通じて、首都圏の方へ向けて、東通村の魅力を発信しました。

19日から21日の3日間、JR仙台駅で開催された「うまい森 青い森フェア」では、東通牛ビフテキジャーキーやブルーベリージュース等を販売しました。行き交う旅行客が、東通村の味を求めています。

10月4・5日の2日間、同日に開催された、東京都北区の「ふるさと北区区民まつり」と、青森市の「AFBファンミーティング」に参加し、特産品販売のほか、東通牛串やホタテ串の実演販売を行い、PRしました。村では、今後も“東通村ファン”獲得を目指し、全国にて特産品PRをして参ります。

白糠子ども会 屋島を披露



白糠子ども会の皆さん

10月5日、下北文化会館で開催された「令和7年度こども民俗芸能大会」へ白糠子ども会が出演し、会場につめかけた大勢の観客の前で、堂々と舞を披露しました。

こども民俗芸能大会は、先人から受け継いだ貴重な文化遺産である民俗芸能の保存・継承を図り、後継者の育成や郷土愛の醸成、こどもの健全育成に資するため、毎年青森県教育委員会が開催しているものです。大会では県内6地区を代表する子どもの芸能団体が出演し、各地の伝統芸能が披露されました。

舞を披露した白糠子ども会の皆さんは「練習通りやってきたことを本番でも出そうと思って、緊張せず、リラックスして舞った」と感想を述べました。